

センター

令和6年度

事業報告書

（和歌山県国際交流センター管理運営事業）

公益財団法人和歌山県国際交流協会

令和 6 年度の取組概要

和歌山県国際交流センターは、社会の国際化に即した地域の発展を促進し、県民が国際交流及び国際協力に関する活動を行う拠点とするために平成 10 年 12 月に設置された。

平成 18 年からは、「指定管理者制度」により、当センターの効果的・効率的な管理運営を行っており、令和 6 年度は第 V 期指定管理期間の最終年度となった。

V 期では、令和 4 年度当初から令和 5 年度 5 月の新型コロナウイルス感染症の 5 類移行まで、利用者数や事業運営に影響を受けたが、令和 6 年度は 50 名規模の対面型交流イベントや講演会実施が定着し、通年で安定した運営ができた。また、国際交流団体による施設利用数も過去最高となり、施設利用者総数は増加した結果となった。今年度も引き続き、県民の国際化に関する関心や、在住外国人支援のニーズなどがますます多様化する時代の変化に迅速に対応し、地域住民や外国人住民により親しまれる施設として活用してもらうため、前年度の利用者アンケート調査結果での課題等も反映しつつ下記のとおり各種事業を実施した。

a. センターの維持管理に関する業務（P.3～）

令和 6 年度の当センターの年間利用者数は、23,974 名と令和 5 年度に比べ、約 29% の増加となった。消毒液や高機能空気清浄機の設置を継続しながら、利用団体や来館者には清潔で安心・安全な施設を利用してもらうことができた。

b. 国際交流等に関する活動を実施・支援する業務（P.5～）

国際交流センターボランティア登録者は 178 名であり、ボランティアとしての意識をさらに高め、活動をより実りのあるものにしてもらうため、分野別の研修会を行った。従来から行っているグローバルセミナー、インターナショナル・カフェ、外国語講座などは、開催方法を工夫しながら実施した。

c. 国際交流等に関する情報の収集・発信に関する業務（P.14～）

情報収集提供事業として、他の図書館との差別化を図るため多文化理解関係及び外国人が母語で読むことのできる本等の蔵書をさらに充実させた。ホームページと SNS を活用した情報発信を定期的に行った。

d. 在住外国人等に対する支援業務（P.17～）

相談窓口の運営では、英語、中国語、フィリピン語、ベトナム語、日本語の 5 カ国語で様々な相談に対応し、日本語学習支援なども行った。

e. 在住外国人等に対する防災対策及び危機管理支援業務（P.22～）

近畿地域国際化協会連絡協議会の研究会や総会、共催研修にも積極的に参加した。災害時多言語支援センターの運営訓練を引き続き行った。また、外国人のための防災啓発講座を実施した。

f. 海外移住者及び海外県人会に対する支援及び交流事業の実施業務（P.25～）

本年度は、南加和歌山県人会から 2 名、ブラジル和歌山県人会から 1 名、ペルー和歌山県人会から 1 名の受入を行い、グローバルセミナーなどを通じて県民との相互理解と親睦を深めた。ブラジル和歌山県人会とは定期的にオンラインでのミーティングを行うことで交流を深めた。

g. その他施設を利用した指定管理者自主業務（P.26～）

デジタル情報の配信、わかやま JICA ボランティア応援団業務、DX 推進のための取組等を行った。

ア 施設及び指定管理者の状況 施設・設備の保守点検や修繕の状況、管理運営体制等

（１）施設全体の感染症予防対策

- ・利用者が安心して利用できるよう、各種感染症対策を実施した。
- ・消毒液の設置や清掃時の館内設備の定期的な消毒、高機能空気清浄機の設置は継続して行った。

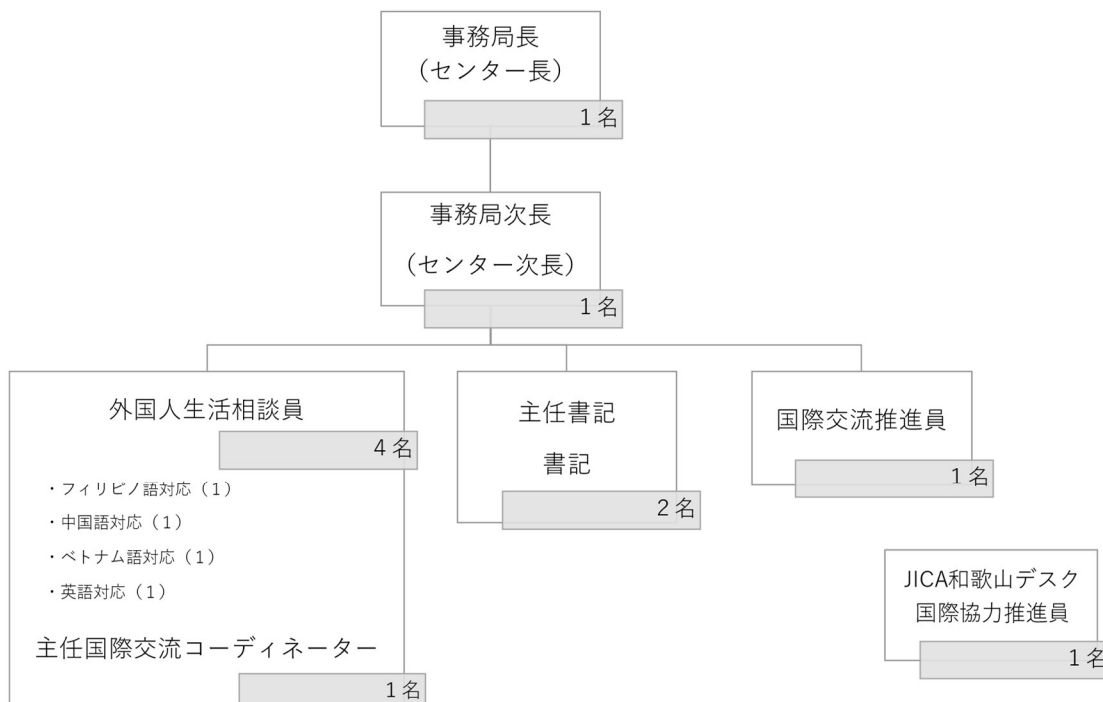
（２）清掃

国際交流センターを快適に利用してもらうために、毎日の当番制による職員のチェックと簡単な掃除、そして毎週月曜日、木曜日にスタッフ全員で清掃活動を行った。年に２回、センター交流ラウンジ・サークル室・小会議室・倉庫・事務所の大幅掃除や部分的な床剥離清掃を行い、清潔な環境維持に努めた。

（３）危機管理体制

- ・施設内での事故等に備え、施設所有管理者賠償責任保険に加入した。
- ・緊急時連絡体制表を更新し、職員全員が内容を把握した。
- ・感染拡大予防ガイドラインを常備した。
- ・甲種防火管理者講習を受講した職員が、危機管理体制を強化した。
- ・職員がビッグ愛８階消防避難訓練及び救命講習会に参加し、緊急時の危機管理能力を向上させた。
- ・災害時の多言語支援センター設置運営訓練に職員全員が参加し、危機管理に関する意識共有を行った。
- ・交流ラウンジ内に設置した防災啓発コーナーでは、防災グッズの展示を兼ねて災害時多言語支援センター設置運営に必要な備品を備えた。保存食は賞味期限などを考え、新たに買い足す「ローリングストック法」により適正量を備え置いた。
- ・個人情報とは、「公益財団法人和歌山県国際交流協会 情報セキュリティ対策要綱」に沿って適切に管理した。

（４）管理運営体制



イ 業務及び利用の状況 指定管理業務・自主事業の実施状況、施設の利用状況等

指定管理業務実施状況

a. センターの維持管理に関する業務

○ センター交流促進事業

和歌山県国際交流センターを様々な目的で訪れる利用者の方々が、安心して利用できる清潔で快適な施設づくりと、スタッフ・来館者同士のスムーズなコミュニケーションが図れるような環境づくりに努めた。

(P.2再掲（１）～（３）)

（１）施設全体の感染症予防対策

- ・利用者が安心して利用できるよう、各種感染症対策を実施した。
- ・消毒液の設置や清掃時の館内設備の定期的な消毒、高機能空気清浄機の設置は継続して行った。

（２）清掃

国際交流センターを快適に利用してもらうために、毎日の当番制による職員のチェックと簡単な掃除、そして毎週月曜日、木曜日にスタッフ全員で清掃活動を行った。年に２回、センター交流ラウンジ・サークル室・小会議室・倉庫・事務所の大幅掃除や部分的な床剥離清掃を行い、清潔な環境維持に努めた。

（３）危機管理体制

- ・ビッグ愛８階消防・避難訓練の実施

日 時：令和7年1月16日（木）15：00～16：00

参加者：当センター全職員、和歌山県消費生活センター職員 約20名

内 容：ビッグ愛８階からの避難ルートの確認。消火器や消火栓を使用した初期消火の練習。

防火ドアの使用方法について学習。（ビッグ愛管理事務所職員、ビッグ愛防災センター職員による）

- ・施設内での事故等に備え、施設所有管理者賠償責任保険へ加入した。
- ・緊急時連絡体制表を更新し、職員全員が内容を把握した。
- ・感染拡大予防ガイドラインを常備した。
- ・甲種防火管理者を常置させ、ビッグ愛８階消防計画に沿って危機管理を強化した。
- ・災害時の多言語支援センター設置運営訓練に職員全員が参加し、災害時の危機管理に関する意識共有を行った。
- ・個人情報とは、「公益財団法人和歌山県国際交流協会 情報セキュリティ対策要綱」に沿って適切に管理した。



（４）施設内の工夫

施設内の表示は原則やさしい日本語、英語、中国語、フィリピン語、ベトナム語で作成し、外国人利用者が安心して利用できる工夫をした。また、レイアウトについても利用促進につながる工夫を以下のとおり各セクションにおいて行った。

—交流ラウンジ

- ・交流ラウンジでは保有する雑貨や備品を国別に整理し保管した。これらの雑貨や民族衣装は定期的に館内装飾のため利用した。
- ・清潔で安心して利用していただける環境づくりに努めた。ウォーターサーバーを設置して水やお湯を注ぐだけのスティックタイプのお茶やコーヒーも無料で提供した。
- ・Wi-Fiを整備し、広く交流ラウンジを団体等に開放した。

—資料閲覧室

利用者が世代別や用途別に快適に利用できるよう、レイアウトを定期的に整理し変更した。

資料閲覧室利用に関するデータ等は、P.14「c. 国際交流等に関する情報の収集・発信に関する業務
○資料閲覧室」に記載。

—防災啓発コーナー

交流ラウンジ内に防災啓発コーナーを設置し、ローリングストック法により更新した。災害時に役立つ防災グッズの展示を兼ねて災害時多言語支援センター設置運営に必要な備品を備えた。また、当センターが発行する多言語防災ガイドをはじめ、災害時に役立つ資料・パンフレット・図書等を展示した。

—キッズコーナー

外国文化に関する絵本や玩具の設置、子供用民族衣装の試着、せかいのぬりえ体験等の内容を取り揃え、お子様連れの方々が利用しやすい環境づくりに努めた。玩具等は定期清掃での消毒により清潔に維持し、季節に応じた絵本の入れ替えやデコレーションを行い、親子で安心して楽しめるよう維持管理した。

—ボランティア・団体用サロン

和歌山県内の国際交流団体が定期的なミーティングに利用できるスペースを整備した（各団体が利用できるように12個のロッカーを設置し、現在すべてのロッカーが利用されている）。Wi-Fiやコピー機などを整備し、当センターボランティアや団体の活動をサポートした。

—情報ボード

個人や団体が自己管理のもと、自らの情報を自由に提供できる場所として情報ボードを設置し、「国際交流イベント」、「語学学習のお知らせ」などの情報発信に活用してもらった。また、和歌山県外の外国人支援団体からの情報なども掲示し、在住外国人向けの生活に関する情報を適宜提供した。

b. 国際交流等に関する活動を実施・支援する業務

I センターの施設及び整備の提供

○施設の貸出と環境整備

民間国際交流団体やボランティアグループ等へ施設の貸出を行った。また、Wi-Fi 環境やコピー機の保守管理等を適宜実施し、活動しやすい環境づくりに努めた。

○学校連携事業

1 和歌山県国際交流センターオンライン見学会

◇ 和歌山市立貴志小学校児童へのオンライン見学会の実施

- (1) 日 時 令和6年11月28日（木） 10:40～12:20
- (2) 場 所 和歌山市立貴志小学校、和歌山県国際交流センター交流ラウンジ（Zoom での交流）
- (3) 講 師 （公財）和歌山県国際交流協会 事務局次長 亀井勝博
主任外国人生活相談員 鬼塚ジョアン
主任書記 松尾千夏
- (4) 参 加 者 第3学年1・2組 64名
- (5) 内 容 「国際交流センターへようこそ」、「クイズダービーに参加しよう！」ほか

2 和歌山県国際交流センターにおける国際理解学習の実施

◇ 和歌山市立貴志小学校児童への国際理解学習

- (1) 日 時 令和7年1月16日（木） 13:00～15:00
- (2) 場 所 和歌山県国際交流センター交流ラウンジ、和歌山県NPOサポートセンター
- (3) 講 師 （公財）和歌山県国際交流協会 事務局次長 亀井勝博
主任書記 松尾千夏
- (4) 参 加 者 第3学年1・2組 64名 担当教師4名
- (5) 内 容 「国際理解ワークショップ」、「和歌山移民の歴史と生活について（映像視聴）」ほか

3 その他センター外での活動

◇ 和歌山大学での講演の実施 「グローバル化社会論」第6回「公的機関の取り組み」

- (1) 日 時 令和6年11月6日（水） 13:10～14:40
- (2) 場 所 和歌山大学 E1-103（東1号館）
- (3) 講 師 （公財）和歌山県国際交流協会 事務局長 北山徹
主任国際交流コーディネーター 奥直子
- (4) 参 加 者 学部（教育、システム工学、経済、観光1～4年生）及び留学生 151名（うち留学生17名）
- (5) 内 容 「国際交流センターをどう活用していくか」

○NPO 協働事業

国際交流や異文化・多文化理解を促進している非営利の団体と協働することで、県内の国際交流や異文化・多文化理解の更なる活性化を図り、県民の多文化共生への意識を高めるために下記事業を実施した。

◇ 第5回ゼロエンマーケット in 紀の川市の協力

- (1) 主催団体 和歌山県青年海外協力協会 WOCA、ゼロエンマーケット in 紀の川市実行委員会
- (2) 日 時 令和6年5月12日（日）10：30～15：00
- (3) 場 所 那賀体育館
- (4) 内 容 多文化共生の地域づくりの一環として、在住外国人が地域でより良い暮らしを送れるよう、必要な情報提供の機会を作ること、交流のきっかけとなることを目的としている。主催者からの依頼により、在住外国人のための生活相談窓口・日本語教室情報のチラシ、多言語防災ガイドブック等外国人のための情報提供、外国人生活相談員の派遣を行った。

◇ 「WAP 塾」夏休みの宿題をしようの共催

- (1) 主催団体 和歌山大学 Wakayama ASEAN Project
- (2) 日 時 令和6年8月10日（土）10：00～12：00
- (3) 場 所 和歌山県国際交流センター 交流ラウンジ
- (4) 内 容 和歌山県に在住する外国につながるこどもの支援を行う団体からの協力依頼により外国につながるこどものためのチラシ情報の翻訳、当日のイベント運営等を行った。
- (5) 参加者 10名

◇ 「ブラジルでの生活と活動についての報告会」

再掲（※詳細は、協会事業報告 P.8 参照）

- (1) 主催団体 わかやま南北アメリカ協会
- (2) 日 時 令和6年9月10日（火）10：30～11：30 ※日本時間
- (3) 場 所 和歌山県国際交流センター 交流ラウンジ Zoom によるオンライン形式にて開催
- (4) 講 師 尾寄凜太郎（和歌山市出身 JICA 海外協力隊員）
- (5) 内 容 ブラジルで生活する講師による生活や活動を紹介後、日本側の参加者とのオンライン交流会にて質疑応答等を通して交流し、ブラジルへの理解を深めた。
- (6) 参加者 10名

◇ 第6回ゼロエンマーケット in 紀の川市の協力

- (1) 主催団体 和歌山県青年海外協力協会 WOCA、ゼロエンマーケット in 紀の川市実行委員会
- (2) 日 時 令和6年10月6日（日）12：00～16：00
- (3) 場 所 桃山会館
- (4) 内 容 多文化共生の地域づくりの一環として、在住外国人が地域でより良い暮らしを送れるよう、必要な情報提供の機会を作ること、交流のきっかけとなることを目的としている。主催者からの依頼により、在住外国人のための生活相談窓口・日本語教室情報のチラシ、多言語防災ガイドブック等外国人のための情報提供、外国人生活相談員の派遣を行った。

◇ 「WAP 塾」 自己紹介ビンゴであそぼうの共催

- (1) 主催団体 和歌山大学 Wakayama ASEAN Project
- (2) 日 時 令和6年11月30日（土）10:00～12:00
- (3) 場 所 和歌山県国際交流センター 交流ラウンジ
- (4) 内 容 和歌山県に在住する外国につながるこどもの支援を行う団体からの協力依頼により外国につながるこどものためのチラシ情報の翻訳、ビンゴ大会等の当日のイベント運営を行った。
- (5) 参 加 者 25名

◇ 「本場ドイツのクリスマスと聖歌」

- (1) 共催団体 ドイツ語文化交流協会
- (2) 日 時 令和6年12月21日（土）16:00～17:30
- (3) 場 所 和歌山県国際交流センター 交流ラウンジ
- (4) 内 容 ドイツ出身プレゼンターが本場ドイツのクリスマスについて紹介した後、ミニコンサートを開催した。バリトン歌手とソプラノ歌手、ヴァイオリン奏者によるクリスマスの音楽及びヴァイオリン独奏を披露した。
- (5) 参 加 者 44名

◇ 「せかいのぬりえ」作成

コロナ禍でも実現可能な事業として令和3年度より開始した取り組み。引き続き9枚目となる当センターオリジナルぬりえ「せかいのぬりえ」を制作した。「わかやまのぬりえ」でぬりえ制作実績を持ち、県内で活躍する父親サークル「パパのチカラ」と協働制作をした。「せかいのぬりえ」はこれまでの発表してきたぬりえと併せ今後もセンター内のキッズコーナーに常置し、来館者に楽しんでいただいた。

- (1) 共催団体 パパのチカラ（パパチカ）
- (2) テーマ 「かんこくのおしょうがつ」
- (3) 内 容 パパチカ及び和歌山県在日本大韓民国民団和歌山県地方本部と共に企画した韓国の文化紹介
- (4) ぬりえを活用したイベント 「せかいのぬりえコンテスト」の実施

小学生までを対象とし、期間内で作品の応募を受け付けた。

募集期間：令和6年12月1日（日）から令和7年1月31日（金）

応募作品：262名

入 賞 者：20名

表 彰 式：令和7年3月16日（日）10:30～11:00



Ⅱ 国際交流機会の提供

○国際交流センターボランティア登録制度

和歌山県の国際交流活動への関心が高く、ボランティア活動を積極的に行う意欲のある方を募集し、登録後は、活動をより実りのあるものにしてもらうため、分野別の研修会を行った。また、活動に対する思いや目標を高めてもらう機会とするため、全ボランティアを対象とする研修会を実施した。

◇ ボランティア登録者数 178名

内訳：（複数登録者あり）

通訳・翻訳 71名 日本語 42名 ホームステイ及びホームビジット 48名

文化紹介（日本文化・外国文化）79名 情報収集提供 26名

（昨年度実績 161名 通訳・翻訳 64名 日本語 40 ホームステイ及びホームビジット 44名 文化紹介（日本文化・外国文化）70名 情報収集提供 23名）

◇ ボランティア登録説明

登録や活動に関心のある方々に対し、担当者が個別対応にて登録制度を説明した。

○ボランティアの人材育成研修等

◇ ボランティア研修会

日頃のボランティア活動において、平時や災害時に在住外国人と関わる際に心に留めることや参考となる話を、（公財）大阪府国際交流財団の吉川友香氏からお聞きし、国際交流ボランティア活動への価値と必要性について研修を行った。

（1）日 時 令和7年3月15日（土） 13：30～15：00

（2）実施方法 和歌山県国際交流センター サークル室

（3）講 師 （公財）大阪府国際交流財団 吉川 友香

（4）テ ー マ 「多文化共生の地域づくりについて」
～やさしい日本語や無意識の偏見の観点から～

（5）対 象 者 和歌山県国際交流センターボランティア登録者、新規登録希望者

（6）参 加 者 24名

◇「通訳ボランティア技術向上講座」事業

司法通訳、コミュニティ通訳を専門分野とする講師を招き、通訳ボランティア活動に必要な通訳技術の向上を図るとともに、ロールプレイでは、アメリカ・ウィスコンシン州出身の英会話講師を交え、日常に起こりうる状況での実践的トレーニングを行い、参加者の通訳における学びを深め、日頃の英語学習をより積極的に取り組むきっかけとなった。

（1）日 時 令和6年11月24日（日） 13：30～15：00

（2）場 所 和歌山県国際交流センター サークル室

（3）講 師 水野 真木子（金城学院大学 文学部英語英米文学科 教授）

（4）対 象 者 和歌山県国際交流センター通訳ボランティア登録者

（5）参 加 者 11名

◇ 日本語ボランティア研修会（P.20 d. 在住・滞在外国人支援業務 II コミュニケーション支援に詳細記載）

◇ ボランティア交流会

和歌山県国際交流センターボランティア（通訳・翻訳、日本語、文化紹介、ホームステイ・ホームビジット、情報収集提供）が、お互いの活動で会う機会の少ない他の種類のボランティアと交流できる機会を設けた。

- （１）日 時 令和6年7月20日（土）13：00～15：00
- （２）場 所 和歌山県国際交流センター 交流ラウンジ
- （３）内 容 各種のボランティアによる近況報告（R5年度の活動報告）、ボランティアによるフルート演奏、ボランティア同士の交流会
- （４）参 加 者 和歌山県国際交流センターボランティア登録者 28名

◇ 対日理解促進交流プログラム「2024年度カケハシ・プロジェクト」（米国）ヒスパニック系若手リーダー招へいの受入

このプログラムは4名の米国大学生が参加者であり、日本の外交姿勢や魅力等について積極的に発信してもらうことで対外発信を強化し、日本の外交基盤を強化することを目的としており、ホームステイボランティアと交流できる機会となった。

- （１）期 間 令和7年1月31日（金）～2月2日（日）
- （２）主催団体 一般財団法人 日本国際協力センター（JICE）関西支所
- （３）活動ボランティア ホームステイボランティア1家庭
- （４）受入学生 米国男子大学生1名

Ⅲ 交流イベント

○ 「移民展・国際理解写真展」事業

◇ 「和歌山からカナダに渡った先人たちのストーリー」

★展示パネル

日高郡の美浜町三尾はカナダへ多くの移民を送り出した地域であり、その移民した人たちが帰国後にカナダでの暮らしや文化を三尾に根付かせ、今ではその地域はアメリカ村と呼ばれている。彼らの歴史と地域にもたらした文化についてパネルを通して紹介した。

また、「三尾の民家建築とカナダ移民」（監修・制作：松田法子（京都市立大学））と題して多数のカナダ移民を輩出した漁村の民家をパネルで紹介した。

- （１）期 間 令和7年2月17日（月）～28日（金）午後3時まで
- （２）場 所 和歌山県国際交流センター 交流ラウンジ
- （３）パネル枚数 24枚 （サイズA1）

★講演会

和歌山からカナダへの移民についてお話しいただき、カナダでの生活、また日本に帰国後の生活文化を話していただいた。

- （１）日 時 令和7年2月16日（日）13：30～15：00
- （２）場 所 和歌山県国際交流センター 交流ラウンジ
- （３）講 師 三尾たかえ（カナダミュージアム館長）
- （４）参 加 者 24名

◇「創作こけし展 世界中の仲間たち」

和歌山県出身・群馬県在住の創作こけし作家が作った様々な国をイメージした「笑顔」あふれる作品の展示をした。来館者に世界の国々について考え、どんな時でも「笑顔」が大切だという事を再認識していただいた。

★展示作品

- (1) 期 間 令和7年3月13日（木）～21日（金）
- (2) 場 所 和歌山県国際交流センター 交流ラウンジ
- (3) 作 品 15点

★ワークショップ

世界の国を紹介した本からその国を想像し、国旗をモチーフにしたこけしの絵付けをした。

- (1) 日 時 令和7年3月15日（土）10:30～15:30
- (2) 場 所 和歌山県国際交流センター 交流ラウンジ
- (3) 講 師 阪口 壮汰
- (4) 参 加 者 10名

○ グローバルセミナー事業

在住外国人や外国での生活経験のある方、様々な文化やことばに精通した方々の協力を得て、県民の方々に出会いと交流の場を提供し、世界には多様なことばや文化があることを実感してもらった。さらに、在住外国人が同じ地域に住む住民であるという意識を持ってもらうことを目的に、本グローバルセミナーを開催した。

◇ 7月グローバルセミナー「南カリフォルニアからふるさと和歌山にルーツを訪ねて」

- (1) 日 時 令和6年7月6日（土）13:30～15:00
- (2) 場 所 和歌山県国際交流センター 交流ラウンジ
- (3) ゲ ス ト 増川 貢 カイル（23歳）
フラナガン 恵 ケイトリン（23歳）
- (4) 内 容 南加和歌山県人会の2名によるプレゼンテーション、参加者と南加クイズを通して交流し、
県人会や南カリフォルニアについて詳しく知っていただく機会を提供した。
- (5) 参 加 者 42名（参加者 34名 + 英語通訳ボランティア8名）

◇ インターナショナル・カフェ第1回「魅せるフロリダ州&サルサダンス」

県内在住の様々な国の方々と出会い、コミュニケーションできる場として「インターナショナル・カフェ」を開催した。

- (1) 日 時 令和6年8月18日（日）14:00～16:00
- (2) 場 所 和歌山県国際交流センター 交流ラウンジ
- (3) スピーカー 松田 デイビッド（アメリカ・フロリダ州出身、和歌山大学、和歌山県立医科大学非常勤講師）
ダンス指導 川西 量子、由井 恵津子（和歌山サルサアミーゴパーティー主宰）
- (4) 内 容 第1部 フロリダ州の魅力紹介
第2部 サルサダンスのミニ講座
第3部 交流会&サルサパーティー
- (5) 参 加 者 66名（7ヵ国）

◇「本場ドイツのクリスマスと聖歌」

共催：ドイツ語文化交流会 [(再掲) P.7 参照]

◇ 12月グローバルセミナー「～国際協力の日フェスタ～」

- (1) 日 時 令和6年12月14日（土）11:00～16:00
- (2) 場 所 和歌山県国際交流センター交流ラウンジ、サークル室
県民交流プラザ和歌山ビッグ愛801, 802号室
- (3) 内 容 和歌山県内等の国際協力団体が一堂にあつまりフェスタを開催し、県民の方に地域でできる身近な国際協力活動を紹介した。
- (4) 出展団体 7団体 JICA 関西、公益社団法人青年海外協力協会、和歌山青年海外協力協会
特定非営利活動法人 Happiness Kids Labo（旧 AMAYAKA (W)）
和歌山県中南米交流協会、Wakayama ASEAN Project (WAP)
一般社団法人 Bokk Jambaar（ボック ジャンバール）
わかやま JICA ボランティア応援団
- (5) 参 加 者 110名

◇ インターナショナル・カフェ第2回「お札の顔になった留学生～6才で海を渡った津田梅子の物語」

県内在住の様々な国の方々と出会い、コミュニケーションできる場として「インターナショナル・カフェ」を開催した。

- (1) 日 時 令和6年12月8日（日）13:30～15:30
- (2) 場 所 和歌山県国際交流センター 交流ラウンジ
- (3) 講 師 津田 道夫（和歌山市出身、大阪大学情報科学博士。津田梅子は大伯母になる）
ゲストスピーカー 久保 梨寿夢（留学経験者、ANA 勤務）
- (4) 内 容 第1部 津田梅子の生涯と功績についての講演会
第2部 カナダ留学経験談
第3部 講師などを囲んでフリートーク交流会
- (5) 参 加 者 55名

◇ 1月グローバルセミナー「ブラジル・ペルーからふるさと和歌山にルーツを訪ねて」

- (1) 日 時 令和7年1月25日（土）13:30～15:00
- (2) 場 所 和歌山県国際交流センター 交流ラウンジ
- (3) ゲ ス ト ブラジル和歌山県人会 チアゴ アレシャンドレ シロ タニグチ（16歳）
ペルー和歌山県人会 アリアナ ハツミ サウサ イナガキ（18歳）
- (4) 内 容 ブラジル和歌山県人会より1名、ペルー和歌山県人会より1名の若者によるプレゼンテーションや両国の紹介、参加者との交流会を通して県人会や両国について詳しく知っていただく機会を提供し、交流を深めた。
- (5) 参 加 者 53名

◇ 人権セミナー「医療通訳の観点から考える外国人の人権」

- (1) 日 時 令和6年12月7日（土）13:30～15:00
- (2) 場 所 和歌山県国際交流センター交流ラウンジ、オンライン（Zoom）
- (3) 講 師 中萩 エルザ（ブラジル・サンパウロ市出身、医師。関西学院大学非常勤講師、医療通訳）
- (4) 内 容 豊富な経験から、多くの実例を用いて医療通訳をする際に必要な知識や心得について説明。
また、ロールプレイを通して、参加者に実際に言葉が通じない場面を体験したり、ジェスチャーで伝えることの限界を実感してもらった。参加者と一緒に医療通訳について考える機会となった。
- (5) 参 加 者 20名

○ オンライン世界旅行

◇ 「ブラジルでの生活と活動について」

再掲（※詳細は、令和6年度和歌山県国際交流協会(自主事業)事業報告書P.8参照）

○ ボランティアとの共催事業

◇ 「英会話カフェ」

英会話力の向上や異文化理解の機会を求める方の要望に応えるため、気軽に英会話を楽しむ機会を提供し、参加者が交流を通して自発的な語学学習活動や国際交流活動に取り組んでもらうことを目標に、国際交流センターボランティアと共催で開催した。

- (1) 日 時 第1ターム 令和6年 4月16日～ 7月9日 11回
第2ターム 令和6年 9月17日～12月3日 11回
第3ターム 令和7年 1月 7日～ 3月25日 11回
13:00～14:10 全33 全日程火曜日の実施
- (2) 場 所 和歌山県国際交流センター 交流ラウンジ、サークル室
- (3) 内 容 2名の英会話講師による初級英会話クラスを実施した。参加者に講座内だけではなく、自宅での学習にも積極的に取り組んでもらえるよう内容を考え、受講者の実力向上を図った。スモールトーク会では、講師以外の英語話者を招いて、受講者に英語で会話を楽しむ機会を提供した。運営では各クラスにボランティアスタッフを決め、参加者自らによるクラス運営への積極的な参加を実現した。
- (4) 講 師 佐藤 真理、Imuta Gary Shinsuke
- (5) 受 講 者 第1ターム25名、第2ターム 23名、第3ターム 23名
- (6) 企 画 者 外国文化紹介ボランティア 佐藤 真理

◇ やさしいドイツ語文化理解講座

県内に在住または勤務する方を対象に、ドイツの言葉や文化を理解してもらうために、国際交流センターボランティアと共催で開催した。

- (1) 日 時 令和6年4月20日（土）～令和7年3月8日（土）
16:50～18:20 全32回
- (2) 場 所 和歌山県国際交流センター サークル室
- (3) 内 容 アットホームな雰囲気の中、教科書やプリントに基づいた平易で使用頻度が高い日常生活に関わる表現を学びながら、語学学習にとどまらず食文化や芸術、社会について、ドイツ語圏文化と日本文化をテーマに取り上げ、異文化理解をすすめた。
- (4) 対 象 者 ドイツ語やドイツ文化に興味のある県民
- (5) 講 師 田島 昭洋（大阪公立大学ドイツ語講師）、ドイツ語が母語の話者
- (6) 受 講 者 13名
- (7) 企 画 者 外国文化紹介ボランティア 田島 昭洋

◇ 日本語クラス

県内に在住する外国の方を対象に、日本語や日本文化を学んでもらうために、国際交流センターボランティアと共催等で日本語クラスを実施した。詳細はP.19コミュニケーション支援事業欄参照

○ボランティア自主企画

◇ ブータン刺繍講座

県内に在住または勤務する方を対象に、初歩的なブータンの刺繍を学びながら、ブータンの文化も知ってもらうために、国際交流センターボランティアと自主企画で開催した。

- (1) 日 時 前期 令和6年 6月9日～8月25日
10:00～12:10 月2回 全6日間
後期 令和6年 10月12日～令和7年1月11日
10:00～12:10 月2回 全6日間
前期 全日程 日曜開催／後期 全日程 土曜開催
- (2) 場 所 和歌山県国際交流センター サークル室
- (3) 内 容 ブータン文化を知って、ブータン刺繍に触れてもらい、入門編の作品を完成させる。
ブータン刺繍の魅力を感じてもらうことで、国際理解を深めた。
- (4) 対 象 者 ブータンやブータン刺繍に興味のある県民
- (5) 講 師 橋本 智美
- (6) 受 講 者 各講座2名
- (7) 企 画 者 外国文化紹介ボランティア 橋本 智美

c. 国際交流等に関する情報の収集・発信に関する業務

○ 資料閲覧室

資料閲覧室においては、外国人向けの図書を多数所蔵し、当センター独自の強みとして、「母語で日本語を学べる教材・母語で読むことができる小説」、「世界各国の多様な文化を描いた絵本」の充実等を強化し、他の図書館との差別化を図った。また、多文化共生や国際理解等に関係する多彩な図書を取り揃え、分類ごとにわかりやすく配置した。定期的に内容を入れ替えたメインの飾り棚は、来館者がすぐに手にとってもらいやすい場所に配置した。さらに、民間団体（和歌山東ロータリークラブ）から、109冊の新規図書の寄贈を受け、それらも含め活用した。（※詳細は、令和6年度和歌山県国際交流協会(自主事業)事業報告書 P.7 参照）

◇ 蔵書数 8,333冊（昨年度実績 8,062冊）

（1）蔵書構成：日本語・外国語図書（外国語小説、日本の小説や漫画の外国語版、日本語学習、外国語学習

◇ 図書貸出サービス登録者数 1,026名（R5実績 978名、R4実績 960名）

- ・貸出条件対象者 小学生以上であって県内在住の方、または県内に通勤、通学している方
- ・貸出期間 3週間
- ・貸出冊数 10冊まで
- ・貸出利用者 のべ205件（昨年度実績のべ151件）
- ・総貸出冊数 601冊（昨年度実績 427冊）

◇ 図書システム改修

図書館運営の利便性の向上をすべく、経年劣化した図書システム一式を最新のものに更新した。

◇ 「せかいのえほんバッグフェア」の開催

- （1）期 間 令和6年4月23日（火）～5月12日（日）
- （2）場 所 和歌山県国際交流センター資料閲覧室
- （3）内 容 2024年こどもの読書週間に合わせ実施した。こどもたちが、親御さんと共に絵本を読む機会の提供と絵本を通して多文化に触れる事を楽しむ目的で行った。和歌山県国際交流センターには、世界中の文化や風習を題材にした絵本から多言語絵本等を取り揃えている。絵本3冊を、「せかいのえほんバッグ」に袋詰めし貸出し、期間中バッグを借りた方には海外の包装紙で作られたオリジナル葉をプレゼントした。
- （4）貸出冊数 66冊（22袋）



◇「なつやすみスタンプラリー」の開催

- (1) 期 間 令和6年7月20日（土）～令和6年8月31日（土）
- (2) 場 所 和歌山県国際交流センター資料閲覧室
- (3) 内 容 子連れの来館者をターゲットに来館者数の増進及び図書コーナーの利用促進を目指し、主に小学校の夏休み期間を対象としたスタンプラリーを開催した。期間中、本を借りてくれた親子または子供さんには1回につきスタンプ1個を押し、2回の利用でスタンプラリーが完成。プレゼントと交換した。

◇ その他貸出数増加のための取組み

- ・季節やイベントに応じて特設コーナーの設置や、飾り棚を定期的に変化させ更なる利用促進につなげた。
- ・県内の高校及び大学にて図書館司書を務めるメンバーが10代向けにお薦めの本を情報掲載するフリーペーパーを発行する団体「つかさ食堂」と協働し、当センターに蔵書する本を毎月1冊取り上げてInstagram等のSNSでコメントつきで紹介するとともに館内にもわかりやすく専用コーナーを設置した。

◇ 除籍図書の寄贈

和歌山県国際交流センター資料閲覧室の運営要項に沿って除籍した本を一定期間センター利用者に呼びかけ設置した。

○ ホームページ及びSNS

センターホームページでは、外国人の生活関連情報など多くの情報を発信した。また引き続きフェイスブックやInstagram等のSNSを活用し、イベント等のお知らせや実施後の写真等を掲載した。

◇ センターホームページ等

ホームページについては、イベント情報やイベント報告・お知らせなど情報発信は迅速に行い、更新頻度を多くした。言語は（日本語・英語・中国語・フィリピン語、ベトナム語）の5言語に対応しており、日本語はすべてやさしい日本語で掲載（※一部を除く）。外国人生活関連情報や、和歌山県内の日本語学習支援に関する情報、イベント等の情報をより分かりやすく掲載した。また、災害時避難所巡回訓練、多言語支援センター設置運営訓練用に被災者が情報を収集できるようバナーとお知らせページを設置した。

- ・センターホームページ閲覧者数37,380件（昨年度ホームページ閲覧者数実績 36,209件）

◇ フェイスブック等SNSでの情報発信

公式フェイスブック及び公式Instagramにて、休館日の案内、各事業に関するイベント告知や報告等タイムリーな情報発信を随時行った。また、フェイスブックと連動したInstagramでの情報発信を行った。より幅広い年齢層に情報提供をするため年齢層等利用者の分析を行いつつ運用した。

- ・フェイスブックページのフォロワー数 1,147件（「いいね!」数 1,029件）
（昨年度フェイスブック「いいね!」数実績 983件）
- ・Instagramフォロワー数 582件
（昨年度Instagramフォロワー数実績 324件）

○ その他情報発信等

◇ 「情報提供ボード」による情報発信

国際交流センター廊下に設置したボードに、和歌山県国際交流センターボランティア活動の紹介、県内の在住外国人に関する記事、在住外国人のための多言語での各種情報の掲示等、来館者にわかりやすい様々な内容の情報を掲示した。

◇ 「ふれあい人権フェスタ」に出展

- (1) 日 時 令和6年11月16日（土）10:00～16:00
- (2) 場 所 紀南文化会館
- (3) 内 容 協会やセンターで実施する国際交流イベント等の情報提供
- (4) 利用者数 206名（イベント総来場者数1,200名）
- (5) 主 催 和歌山県・（公財）和歌山県人権啓発センターほか

◇ 県内公立図書館 国際理解展示会に出展

- (1) 期 間 令和6年11月30日（土）～12月24日（火）
- (2) 場 所 岩出市図書館
- (3) 内 容 国際理解推進の展示「世界で活躍する JICA 海外協力隊」ブースにおいて、協会やセンターで実施する国際交流イベント等の情報提供
- (4) 利用者数 482名（展示総閲覧者数2,970名）
- (5) 主 催 JICA 関西、わかやま JICA ボランティア応援団

◇ 県内公立図書館 国際理解展示会に出展

- (1) 期 間 令和7年2月7日（金）～2月14日（金）
- (2) 場 所 和歌山県立図書館
- (3) 内 容 国際理解推進の展示「世界で活躍する JICA 海外協力隊」ブースにおいて、協会やセンターで実施する国際交流イベント等の情報提供
- (4) 利用者数 207名（展示総閲覧者数1,584名）
- (5) 主 催 JICA 関西、わかやま JICA ボランティア応援団

○ 職員の資質向上研修等

◇ 多文化対応力向上講座（図書館編）（主催 公益財団法人 かながわ国際交流財団）

- (1) 日 時 令和6年9月2日（土）14:00～16:30
- (2) 開催方法 Web 会議システム（Zoom）を利用したオンライン形式
- (3) 内 容 地域の外国人に対する図書館サービスを充実していくための、図書館における「多文化サービス」や「やさしい日本語」を学ぶための多文化対応力向上講座。図書館における外国人ニーズの把握や具体的な手法等を担当職員が学んだ。

d. 在住・滞在外国人支援業務

I 「生活相談」業務

○外国人相談窓口の運営

外国人のための相談窓口を設置し、在住外国人が生活する上で抱える様々な相談に、外国人生活相談員等が英語、中国語、フィリピン語、ベトナム語、日本語で対応した。相談件数：815件 内容：以下のとおり

当事者国籍・地域別件数

フィリピン	306
日本	148
ベトナム	145
中華人民共和国	75
不明	44
ネパール	11
アメリカ合衆国	9
ミャンマー	8
ブラジル	7
タイ	7
カナダ	7
香港	5
大韓民国	5
モロッコ	5
台湾	4
インドネシア	4
スリランカ	4
ウクライナ	3
インド	3
ジンバブエ	2
コートジボワール	2
ロシア	2
パキスタン	2
モンゴル	1
チリ	1
パラグアイ	1
ナイジェリア	1
イギリス	1
オーストラリア	1
コスタリカ	1

内容別相談件数

通訳・翻訳	107
日本語学習	90
雇用・労働	64
入管手続き	55
教育	48
住宅	20
医療	20
身分関係 結婚/離婚/DV等	19
国籍	17
一般手続き	13
交通・運転免許	12
税金	11
社会保険・年金	11
観光	10
留学	8
出産・子育て	5
社会福祉	5
防災・災害	2
ウクライナ関係	1
その他	297

対応内容別件数

相談対応	386
情報提供	313
専門窓口の紹介	25
人材紹介	18
通訳・翻訳	13
専門窓口への通訳	2
その他	58

○ 外国人のための「専門家による一日相談会」

在住外国人支援の一環として、通常の生活相談の枠を超えた専門的な相談に多言語で対応するため、田辺市において「専門家による一日相談会」を実施した。

- (1) 日 時 令和7年3月2日（日） 13:00～17:00
- (2) 場 所 田辺市民総合センター2階 交流ホール
- (3) 共 催 田辺市、田辺市教育委員会、田辺市国際交流センター
- (4) 相談内容 法律、在留資格・帰化（行政書士）、労働・社会保険・年金、教育、女性、
国などの行政（総務省行政監視行政相談センター）、在留資格など（大阪出入国在留管理局）、
市政・その他生活一般
- (5) 対応言語 英語、中国語、フィリピン語、ベトナム語、日本語
- (6) 相談実施件数 10件 （相談者数6組）
- (7) 相談者国籍・地域別相談件数 中国4件、フィリピン2件、フランス2件、ベトナム2件

*在住外国人の方に健康管理や健康づくりに関心を持つきっかけとして血管年齢測定及びベジチェックコーナーを今年度も設置した。

○ 外国人のための巡回無料法律相談

在住外国人支援の一環として、法テラス和歌山と連携し、無料法律相談を企画し、実施した。

相談内容は民事、家事、行政事件（*刑事事件は対象外）、日本に居住する収入・資産が一定基準以下の外国人を対象に、英語、中国語、フィリピン語、ベトナム語、日本語で対応した。

- (1) 日 時 令和6年5月16日(木)、7月18日(木)、9月19日(木)、11月21日(木)
令和7年1月16日(木)、3月13日(木) 13:00～16:00 各3枠
- (2) 場 所 和歌山県国際交流センター サークル室
- (3) 相談実施件数 2件
- (4) 共 催 法テラス和歌山（日本司法支援センター 和歌山地方事務所）

○ 相談員の資質向上研修等

・地方公共団体職員外国人施策推進研修（令和5年度実施分）後日視聴参加

- (1) 日 時 令和6年5月1日（水）～22日（水）
- (2) 開催方法 Web会議システム（Webex）を利用したオンライン形式
- (3) 内 容 出入国管理及び難民認定Ⅰ（在留関係）・Ⅱ（退去関係）、やさしい日本語講座

・近畿地域国際化協会連絡協議会分科会への参加

- (1) 日 時 令和7年1月31日（金）14:00～16:30
- (2) 場 所 マイドームおおさか 第3会議室
- (3) 内 容 分科会にて各府県の相談業務担当者らによる事例紹介や情報交換会に相談員が参加

・地域国際化連絡会議及び多文化共生地域会議（近畿ブロック）への参加

- (1) 日 時 令和6年12月20日（金）13:30～16:00
- (2) 開催方法 オンライン（Webex）
- (3) 内 容 地域国際化連絡会議（都道府県・政令指定都市からの説明）、多文化共生地域会議（総務省からの施策説明、小野市、高砂市、にほんごぷらすによる事例発表）に相談員が参加

○ 外国人のための多言語情報提供

- ・和歌山県外国人サポートメールの配信 （※再掲 詳細は、令和6年度和歌山県国際交流協会(自主事業)事業報告書 P.10~11 参照)
- ・協会情報誌の共同発行 （※再掲 詳細は、令和6年度和歌山県国際交流協会(自主事業)事業報告書 P.6 参照)

○ 相談システムの改修

- ・相談システムの利便性の向上のため、システム更新を行った。

II コミュニケーション支援事業

在住外国人へ日本語学習を支援するボランティアのサポートを行い、共催等で日本語クラスを実施した。さらに研修会などを通して、ボランティアの支援力及び技術力を強化し、日本語教育の関係者や関係団体との連携を深めた。

○ 日本語クラス

県内に在住する外国の方を対象に、日本語や日本文化を学んでもらうために、国際交流センターボランティアと共催等で日本語クラスを実施した。

◇「もっと日本語クラス」

- (1) 日 時 令和6年4月7日（日）～令和7年3月30日（日）
10:30～12:00 全40回
- (2) 場 所 和歌山県国際交流センター サークル室、交流ラウンジ等
- (3) 内 容 中級レベルの日本語文法や会話表現
- (4) 講 師 和歌山にほんごの会 NAGOMI
- (5) 受講者数 延べ人数 約885名

◇「日本語 おはようクラス」

- (1) 日 時 令和6年4月12日（金）～令和7年3月14日（金）
10:30～12:00 全38回
- (2) 場 所 和歌山県国際交流センター サークル室、小会議室、交流ラウンジ等
- (3) 内 容 入門・初級レベルの表現から中級レベルの文法まで
- (4) 講 師 にほんご HYT の会
- (5) 受講者数 延べ人数 約527名

◇「わがっこ」（和歌山から外国につながるこどもたち）

- (1) 日 時 令和6年4月13日（土）～令和7年3月29日（土）
13:30～16:30 全32回
- (2) 場 所 和歌山県国際交流センター サークル室、小会議室等
- (3) 内 容 こどもの日本語教育および学習サポート
- (4) 講 師 八巻 由実子
- (5) 受講者数 延べ人数 約248名

○ 日本語研修会等

◇ 令和6年度 やさしい日本語研修会

- (1) 日 時 令和7年2月28日（金）10:00～12:00
- (2) 場 所 和歌山ビッグ愛9F 会議室A
- (3) 講 師 和歌山YMCA国際福祉専門学校 非常勤講師/『入門・やさしい日本語』認定講師 友岡 敦
- (4) 受講者数 44名（市町村職員等31、外国人9名、日本語ボランティア4名）
- (5) 内 容 やさしい日本語でのコミュニケーションを学び、県内の多文化共生意識や外国人支援に関する認識を醸成し、各自治体等における多文化共生の取り組みへとつなげるため、ボランティア日本語教室と連携し実施した。
- (6) 協 力 和歌山県国際交流センター日本語クラス「おはようクラス」



やさしい日本語研修会

◇ 日本語ボランティア研修会

地域の日本語教室で学ぶ外国人が増える中、文化庁の「日本語教育の参照枠」に関する概要等を把握し、レベルにあった適切な日本語学習を継続して受けられる地域日本語教室について考える機会とした。

- (1) 日 時 令和7年3月23日（日）13:30～15:00
- (2) 場 所 和歌山県国際交流センター サークル室
- (3) 実施方法 対面及びオンライン
- (4) 講 師 国際交流基金関西国際センター日本語教育専門員
戸田 淑子、竹内 智美
- (5) 内 容 地域の日本語教室ができること～社会参加・自己実現につながる日本語教室について～
- (6) 参 加 者 24名（対面14名、オンライン10名）



日本語ボランティア研修会

◇ 令和6年度 和歌山県内における日本語教室空白地域解消事業（西牟婁郡エリア）

今年度、県内の日本語教室空白地域である西牟婁郡エリアを中心に、日本語学習の機会を拡充するための事業を下記のとおり実施した。（実施期間は令和6年度）

（1）実施方法

令和6年 8月	西牟婁郡地域市町村（すさみ町、白浜町、上富田町、西牟婁振興局）、事業所（ホテルシーモア、紀の国食品、白浜温泉むさし、マリオット、アドベンチャーワールド）、関係団体（白浜温泉旅館協同組合、白浜町商工会、白浜国際交流協会、南方熊楠記念館）に協力依頼及び個別訪問のための日程調整を行った。
令和6年 9月2日	すさみ町役場、白浜町役場、上富田町役場、西牟婁振興局訪問
令和6年 9月13日	ホテルシーモア、紀の国食品、白浜温泉むさし、アドベンチャーワールド訪問
令和6年10月	下記11/27の研修会について、すさみ町広報誌10月号掲載、上富田町FB、白浜町より南紀白浜観光協会HPに掲載
令和6年11月27日	西牟婁郡エリア やさしいにほんご研修会&外国人とやさしい日本語で交流しよう 開催 （※下記記載）

（2）実施結果

研修会・交流会参加者 日本人26名、外国人22名 合計48名
（ホテルシーモア 12名、白浜温泉むさし 3名、白浜国際交流協会 4名、その他 3名）

日本人参加者の大多数が地域の外国人への日本語学習サポートに関心があり、外国人参加者の全員が日本語学習を希望することがわかった。マッチングを行った結果、学習希望者は仕事で勤務時間が不規則であるケースがほとんどであるため、対面での学習は難しくオンラインでの学習へつなげた。

◇ 令和6年度 西牟婁郡エリア やさしいにほんご研修会 & 外国人とやさしい日本語で交流しよう

和歌山県では、多くのケースで日本語ボランティアの方々を中心になる日本語教室が各地域で開催されており、西牟婁郡エリアにおいて、日本語教室空白地域解消のファーストステップとして、日本語学習支援に関心がある日本人と、日本語学習を希望する外国人を対象に「やさしい日本語」を軸にしたボランティア研修会と、「やさしい日本語」による外国人との交流会を開催した。

- （1）日 時 令和6年11月27日（水）12：30～14：30
- （2）場 所 白浜町中央公民館
- （3）講 師 （公財）とよなか国際交流協会／常務理事兼事務局長
地域国際化推進アドバイザー 山野上 隆史
- （4）内 容 前半：（日本人対象）やさしい日本語研修会
後半：（日本人・外国人対象）外国人との交流会
- （5）参 加 者 48名（日本人参加者26名・外国人22名）



やさしいにほんご研修会&外国人とやさしい日本語で交流しよう（白浜町）

e. 在住外国人等に対する防災対策及び危機管理支援業務

災害予防対策

1. 防災啓発

◇ 防災ガイドの改定・増刷

多言語（やさしい日本語、英語、中国語、フィリピン語、ベトナム語）による防災啓発パンフレット「防災ガイド」を随時改定・増刷し、その周知に努めた。また、当センターホームページ上でも閲覧やダウンロードができるよう改定版を掲載した。

主な配布先

- ・県内各市町村 ・日本語学校 ・外国人技能実習生を受け入れている組合 ・当センター主催事業にて
- ・専門家による一日相談会にて ・外国人のための防災ワークショップ「Let's Study BOSAI」にて

◇ 防災啓発ビデオグラム

「やさしいにほんご」による音声と多言語サブタイトル（英語・中国語・韓国語・フィリピン語・タイ語・ベトナム語・インドネシア語から選択可）を挿入し作成した防災啓発ビデオグラムは常備し、問い合わせがあれば配布できるよう備えた。

◇ 外国人のための防災ワークショップ「Let's Study BOSAI」

地震や津波、台風などの災害発生に備え、在住外国人等が自らの防災に関する知識と意識を高め、災害時に適切な行動を取れるようにすることを目的に、地震等災害についての基礎知識を学び、グループで様々なミッションに挑戦する実践型イベントを実施した。

- (1) 日 時 令和6年11月10日（日）13:00～15:30
- (2) 場 所 ビッグ愛9階会議室 A,B,C 及び国際交流センター交流ラウンジ・サークル室
- (3) 主 催 NHK和歌山放送局、和歌山県国際交流センター
- (4) 協 力 和歌山地方気象台、日本防災士会和歌山県支部、和歌山にほんごの会NAGOMI
- (5) 参加者数 外国人26名、運営関係者38名
- (6) 内 容 ①イントロダクション（イベント目的、ルール説明）

②災害に生かせる実践型ワークショップ

災害時に役立つ4つのミッションをグループごとに回り、クリアカードを集める。

- ・非常食を食べてみよう
- ・浸水はキケン！浸水AR体験とハザードマップ紹介
- ・もし人が倒れていたらどうする？～AED・緊急搬送体験～
- ・避難バッグを用意しよう

③全体講座

- ・地震・津波・台風について。知識と経験の少ない在住外国人が、防災の前提となる“災害”の基礎知識等を学ぶ。

※共通使用言語は、やさしい日本語のほか、必要に応じてベトナム語、中国語、英語で行った。

◇「おもしろ環境まつり」でのブース出展

- (1) 日 時 令和6年12月8日（日） 11:00～15:00
- (2) 場 所 みその商店街（和歌山市美園町）
- (3) 内 容 「防災・減災」のテーマにて出展し、外国人ボランティアと当センター職員が県内の在住外国人の状況や災害時のやさしい日本語の大切さについて参加者に呼び掛け、クイズを通して体験してもらう機会とした。
- (4) ブース来場者数 104名（参加機関：約39機関。自治体、民間企業、市民団体、環境保全活動に取り組むNPO等）
- (5) 外国人ボランティア 在住ベトナム人2名

◇和歌山東年金事務所職員研修

「和歌山県国際交流センターの取り組みと在留外国人支援のためのやさしい日本語」の実施

- (1) 日 時 令和7年1月30日（木） 10:30～11:30
- (2) 場 所 和歌山県国際交流センター サークル室
- (3) 内 容 和歌山県国際交流センターの取り組みと災害時の外国人への情報提供時の課題について当センター職員が講演を行った。さらに、やさしい日本語についても詳しく紹介した。発災時外国人の危機管理支援につながる連携を今後も図っていく。
- (4) 参加者数 和歌山東年金事務所 職員5名

2. 多言語支援センターの設置・運営訓練及びその他研修への参加

「災害時における外国人支援ネットワーク近畿ブロック研究会」

近畿圏内において発生する大規模災害に対し、相互に協力し、外国人に対する災害応急対策及び災害予防対策の支援を円滑に推し進める体制づくりを行うことを目的に、災害時多言語支援センターの設置、運営訓練を実施した。また、他協会が実施する共催研修会にも積極的に参加した。

◇令和6年度和歌山県災害時避難所巡回訓練及び災害時多言語支援センター設置運営訓練

- (1) 日 時 令和6年12月19日（木） 10:30～16:30
- (2) 場 所 和歌山ビッグ愛1階（大ホール、ホワイエ）、和歌山県国際交流センター
- (3) 内 容 講演：テーマ「災害多言語支援センターとは？」
「避難所巡回の心得とやさしい日本語」
講師：岩城 あすか氏 クレア地域国際化推進アドバイザー
松本 義弘氏 クレア地域国際化推進アドバイザー
- (4) 参加者 市町村職員10名、振興局職員10名、防災対策課1名、防災企画課2名、近畿ブロック等17名（オンライン参加16名）外国人8名、国際課9名、WIXAS8名 合計65名

◇ 近畿地域国際化協会連絡協議会 総会・懇親会

- (1) 日 時 令和6年8月8日（木） 14:30～16:00、17:00～19:00
- (2) 場 所 京都市国際交流会館など
- (3) 内 容 令和5年度事業報告・収支決算報告及び監査報告、令和6年度事業計画（案）及び予算（案）、分科会実施ローテーション、（一財）自治体国際化協会及び地域国際化協会連絡協議会の事業紹介、情報交換など
- (4) 主 催 近畿地域国際化協会連絡協議会

◇「kokoka 防災訓練 2024・KPIC 災害時外国人サポーター研修」

- (1) 日 時 令和6年6月22日（土）14:00～16:30
- (2) 場 所 kokoka イベントホール、第1・2会議室、会館前庭、第一応接室
- (3) 内 容 防災訓練。外国人から見た能登半島震災と日本の防災について、JICA 奨学生として神戸大学に在籍する講師からの講義
- (4) 主 催 （公財）京都市国際交流協会
- (5) 共 催 近畿地域国際化協会連絡協議会、（公財）京都府国際交流センター、JICA 関西、京都市

◇「災害時ボランティア研修会」

- (1) 日 時 令和7年2月1日（土）13:00～16:00
- (2) 場 所 JICA 関西（第一部のみオンライン参加者あり）
- (3) 内 容 第一部の講義では、城陽市国際交流協会 大久保雅由氏による外国人被災者へ情報提供のあり方、災害時における通訳・翻訳ボランティアの活動等を学び、第二部で避難所を想定したロールプレイを体験した。
- (4) 主 催 （公財）兵庫県国際交流協会
- (5) 共 催 （公財）神戸国際コミュニティーセンター、JICA 関西、近畿地域国際化協会連絡協議会

◇令和6年度近畿地域国際化協会連絡協議会主催研修

- (1) 日 時 令和6年10月4日（金）13:30～16:00
- (2) 場 所 京都テルサ東館3階D会議室
- (3) 内 容 能登半島地震における七尾市国際交流協会の外国人支援について、能登半島地震における難民を助ける会（AAR Japan）の外国人支援について
- (4) 主 催 京都府国際交流センター

◇「災害時における外国人支援ネットワーク近畿ブロック研究会」（第1回～第4回）

- (1) 日 時 第1回 令和6年6月7日（金）、第2回 令和6年9月12日（木）、
第3回 令和6年12月13日（金）、第4回 令和7年2月14日（金）
14:00～16:00
- (2) 場 所 大阪国際交流センター
- (3) 内 容 年間事業計画・収支予算、総会、主催研修、共催研修、分科会（相談員向け）、災害時の緊急連絡体制・情報共有の方法、日本災害医療通訳ネットワークとの連携について、その他情報交換、事例紹介など
- (4) 参加団体 近畿地域国際化協会連絡協議会会員（滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、和歌山県、京都市、大阪市、神戸市）、奈良県（準構成員）、堺市（準構成員）

◇地域国際化連絡会議及び多文化共生地域会議（近畿ブロック）

- (1) 日 時 令和6年12月20日（金）13:30～16:00
- (2) 場 所 オンライン（Webex）
- (3) 内 容 地域国際化連絡会議（書面開催）、多文化共生地域会議（地域における多文化共生の現状や課題、取組について事例発表など

f. 海外移住者及び海外県人会に対する支援及び交流事業の実施業務

○ 海外移住者受入事業

海外に移住した県人にルーツを持つ青年を県内の一般家庭に受け入れ、ホームステイを通じてお互いの国の文化や風俗を理解し、移住先国と自らのルーツである和歌山、日本との相互理解を深めた。

◇ 南加和歌山県人会受入事業

- (1) 受入期間 令和6年7月2日（火）～7月15日（月・祝）
- (2) 対象者 増川 貢 カイル（23歳）
フラナガン 恵 ケイトリン（23歳）
- (3) 内 容 ホームステイ、県知事・県議会表敬訪問、理事長主催昼食会、和菓子作り体験、グローバルセミナー、那智勝浦町訪問など
- (4) 協力団体 和歌山大学

◇ 中南米和歌山県人会受入事業

- (1) 受入期間 令和7年1月16日（木）～2月7日（金）
- (2) 対象者 在ブラジル和歌山県人会 チアゴ アレシャンドレ シロ タニグチ（16歳）
在ペルー和歌山県人会 アリアナ ハツミ サウサ イナガキ（18歳）
- (3) 内 容 ホームステイ、県知事・県議会表敬訪問、理事長主催昼食会、高校生や大学生との交流、グローバルセミナー、日本文化体験など
- (4) 協力団体 わかやま南北アメリカ協会、中南米交流協会、和歌山大学、星林高等学校



南カリフォルニア派遣生



ブラジル・ペルー派遣生

◇ ブラジル和歌山県人会と交流会の開催

- 開催日時 土曜日 9:00～10:00（ブラジル時間 金曜日 21:00～22:00）随時開催
- 開催方法 Zoom によるオンライン開催
- 参加者 県人会メンバー10名前後、協会職員4名、日本語ボランティアなど数名
- 内 容 ブラジル和歌山県人会メンバーの日本語スキルアップ及び県人会等の活動紹介や情報交換など

自主事業実施状況

g. その他施設を利用した指定管理者自主業務

○デジタル情報配信事業

◇和歌山県国際交流センターニュースの発行

再掲（※詳細は、令和6年度和歌山県国際交流協会(自主事業)事業報告書 P.6 参照）

和歌山県国際交流センターを拠点に当協会の事業及び地域の国際化の動きなどの情報を掲載している広報誌を年3回発行した。（センター共同発行） 発行月：10月、2月、3月

発行部数：各1,500部

◇和歌山県外国人サポートメール配信事業

再掲（※詳細は、令和6年度和歌山県国際交流協会(自主事業)事業報告書 P.10・11 参照）

和歌山県より和歌山県外国人サポートメール配信業務の委託を受け、和歌山県に在留する外国人に対して、災害、健康、安全等に関する情報を多言語（やさしい日本語、英語、中国語、フィリピン語、ベトナム語）で配信した。 ※主な配信の時期、内容、周知先についても上記(自主事業)事業報告書 P.10・11 を参照

○わかやま JICA ボランティア応援団

- ・国際理解促進事業として、役員及び会員へクロスロードを配布した。
 - ・JICA ボランティア推進事業として、協力隊ナビプラスを実施した。
 - ・隊員・留守家族支援事業として JICA 海外協力隊家族との交流会を実施した。
 - ・JICA 海外協力隊が学校へやってくるプロジェクト事業（出前講座）を実施した。
 - ・隊員・留守家族への支援事業等として、出発する隊員への「わかやま隊員応援セット」の集荷及び贈呈した。
- また、下記の日程で県内市町村を表敬訪問へ随行した。

日程	訪問先
令和6年7月4日（木）	那智勝浦町・太地町
令和6年7月18日（木）	田辺市・有田市
令和6年7月23日（火）・25日（木）	和歌山市
令和6年7月30日（火）	和歌山県庁
令和6年10月22日（火）	和歌山市
令和6年10月24日（木）	那智勝浦町・太地町
令和6年10月31日（木）	田辺市・有田市
令和6年11月5日（火）	和歌山県庁

○ オンライン世界旅行（海外外オンライン交流プログラム）

再掲 ブラジルでの生活と活動について（※詳細は、令和6年度和歌山県国際交流協会(自主事業)事業報告書 P.8 参照）

○ DX推進の積極的な取組

再掲 YouTube 配信及びオンライン等での交流に役立てるための映像制作

（※詳細は、令和6年度和歌山県国際交流協会(自主事業)事業報告書 P.7）

センター職員向けに、映像制作、SNS 戦略などを中心に、I C T 推進を目的とした実践研修を実施した。和歌山県国際交流センターの施設を紹介した映像を制作し、その際映像制作の専門家からの実践的な技術指導を受けた（株式会社和歌山新報社 映像担当：木村裕丞）。

ウ 利用者アンケートの状況 利用者アンケートの内容及び対応状況等

和歌山県国際交流センターの利用者へのアンケート結果は以下のとおり。（カッコ内で回答総数に対する割合を示す）。アンケートの実施方法については、アンケート用紙の配布及びGoogle formを活用したインターネット上での回答の方法を用いた。総回収枚数は136名、うち在住外国人は44名。アンケート結果については職員全員で共有し、特に改善が必要なご意見については具体的な解決策について話し合った。

○アンケート内容

「和歌山県国際交流センター利用アンケート調査」

① あなたの年齢を教えてください。（回答数 136）

- ・ 10代 (0.7%)
- ・ 20代 (13.2%)
- ・ 30代 (13.2%)
- ・ 40代 (14.7%)
- ・ 50代 (14.0%)
- ・ 60代 (28.7%)
- ・ 70代 (14.0%)
- ・ 80代以上 (1.5%)

② あなたはどうして、センターを利用していますか？（回答数 136）

- ・ 日本語クラスに参加するため (25%)
- ・ サークル室を利用するため（団体活動でサークル室を利用するため）(29.4%)
- ・ ボランティア活動のため (45.6%)
- ・ イベント・講座・研修への参加のため (42.6%)
- ・ 本を借りるため (23.5%)
- ・ 情報を得るため (21.3%)
- ・ 相談を受けるため (13.2%)
- ・ 調べ学習のため (8.1%)
- ・ その他 (2.2%)

③ センターの職員、スタッフの対応について。（回答数 136）

- ・ とても良い (69.1%)
- ・ 良い (27.2%)
- ・ 普通 (2.9%)
- ・ 悪い (0%)
- ・ とても悪い (0.7%)

④ センターの清掃について。（回答数 140）

- ・ とても良い (69.1%)

- ・良い (27.2%)
- ・普通 (5.0%)
- ・悪い (0%)
- ・とても悪い (0%)

⑤ センターの利用についての満足度を教えてください。(回答数 136)

- ・とても満足 (55.9%)
- ・満足 (33.8%)
- ・普通 (9.6%)
- ・不満 (0.7%)
- ・とても不満 (0%)

⑥ 不満、とても不満と答えた方に聞きます。どういった点が不満ですか？具体的に聞かせてください。

- ・駐車場料金が高くなってしまった。
- ・イベントに情報について、もっと詳しく知りたい。
- ・スタッフに親切さが足りない、恥ずかしがっているように感じるが、文化や言葉が違うためかもしれない。

⑦ 和歌山県国際交流センターのホームページを利用していますか？(回答数 136)

- ・利用している (35.3%)
- ・利用していない (64.7%)

⑧ 和歌山県国際交流センターの図書室を利用していますか？(回答数 136)

- ・利用している (43.4%)
- ・利用していない (56.6%)

⑨ 外国人の方にお聞きします。当センターを利用するとき、不便なことや困っていることはありませんか？

- ・不便を感じたことや困ったことは特にない。(複数回答あり)
- ・色々な国との交流に興味があり、自分の子供にも国際交流感がある子供になってほしいと思います。子供向けの国際交流イベントを企画してくださいますとありがたいです。

⑩ 和歌山県国際交流センターへのご意見・ご要望、日ごろのご感想があれば自由にお書きください。

(全回答の中から一部抜粋して記載)

(1)施設利用・接遇・対応に関して

- ・いつも丁寧で親切な対応をしていただきありがとうございます。(複数回答)
- ・部屋を使わせていただき助かります。ありがとうございます。(複数回答)
- ・とても清潔で、誰が来ても恥ずかしくない場所です。
- ・本がたくさんあり良いです。
- ・センターの施設は利用しやすくてうれしく思っています。
- ・どんなことにも寄り添って助けていただいて感謝しています。
- ・コーヒー無料はとても嬉しいですが、お茶があるともっと嬉しいです。
- ・センターでのボランティア活動が大好きです。いつも癒しの場の提供を有難うございます。
- ・以前もお願いしたことがあるのですが、聞きたいことが担当職員の方にしかわからない場合などで、その方が不在や休暇でなかなかお返事がもらえないことがあります。他の職員でもわかるようにしてほしいです。また、年度がわりで今までと担当職員の方が変わることがあるので、毎年度各担当と担当者の基本的な出勤日を教えておいてほしいと思います。

- ・ 外部からの電話を受けた先にご自分のお名前を名乗ってほしいです。
- ・施設の貸部屋利用で予約済みの日時と、センター主催イベントなどが重なる場合は、決定後、なるべく早く知らせてもらえると助かります。
- ・センターで働いている方々がよくわからない。（私自身あまり来る機会がないためかもしれませんが）

(2) 事業に関して

- ・ インスタグラムで情報を流してくださっているのでありがたいです。
- ・ 参加できるイベントをもっと増やしてほしい。
- ・ 日本にお住まいの外国人のご家族の子ども達と子ども同士が交流出来るイベントなどあれば参加してみたい。
- ・ ボランティア登録をしましたが、未だ具体的なお役立ちの機会を頂いていません。そのため意見・要望・感想は出せない状況です。 今後のボランティア活動プランなどお知らせいただくと幸いです。
- ・ 外国の方が和服に興味を持たれた時にはお声をかけていただければ嬉しいです
- ・ 外国と言えば欧米中心というところからから、(在留外国人数の多い) アジア中心へ切り替えてほしい。

(3) 日本語クラス学習者からの感想

- ・ 国際センターで新しいこと、良いこと、美しいこと、意味のあることを学んでいます。 私はいつもそれらのことに感謝しています。 みんな大好き。
- ・ いつも和歌山県国際交流センターへ来てうれしいです。
- ・ 日本語の勉強のため私を助けてくれました。
- ・ 日本語の文化を勉強しました。 良い先生に相談できました。

エ 再委託の実績

①委託実績

- | | |
|--------------|-----------------------------------|
| (1) 契約件名 | 令和6年度和歌山県国際交流センター ホームページ保守管理 |
| (2) 再委託の内容 | 保守管理（令和6年4月1日～令和7年3月31日） |
| (3) 再委託を行う理由 | 保守管理に関しては専門的な知識と技術が必要となるため専門業者に委託 |
| (4) 再委託先 | 株式会社和歌山新報社 代表取締役 津村周（和歌山市福町49番） |
| (5) 再委託金額 | 保守管理費 71,280円 |

オ KPI（重要業績評価指標）の達成状況

○指定管理者として掲げる成果目標（K P I）に対する結果は以下のとおり。

（1）利用者数 令和4～6年度（3年間）の最終目標値20,000人（オンライン利用者数を含む）

和歌山県国際交流センターへの利用者数（オンライン含む）は、令和6年度は23,974名となり昨年度の18,625人と比較して5,349人増加した。今指定管理期の達成目標値20,000人に対する達成率は120%となった。令和6年度和歌山県国際交流センター利用者数は以下のとおりである。増加要因としては、令和6年度は感染症等による人数制限を完全撤廃し丸1年間の事業運営ができたことや対面形式での交流関係のイベントでは、50名規模の交流イベントをより多く実施できたこと。また、国際交流団体による施設貸出利用も定着し、コロナ前の数値を越え過去最高値となったことや施設PRのために県内公共施設等でのブース出展等が利用者数の増加につながった。

※下記表ではサークル室利用者及びオンライン参加者数は来館者総数に含む

年度	利用者総数	※うちサークル室利用者数	※うちオンライン参加者数
令和6年度	23,974	4,939	1,700
令和5年度	18,625	4,893	301
令和4年度	15,599	3,397	696
令和3年度	12,920	2,389	253
令和2年度	16,651	3,338	
令和元年度	21,722	4,245	
平成30年度	34,269	4,792	
平成29年度	25,419	4,312	
平成28年度	26,295	3,981	
平成27年度	25,713	3,811	

（2）センター利用者の満足度 普通以上「とても満足」・「満足」・「普通」が80%越え

和歌山県国際交流センターでアンケート月間を設け、利用者の協力により集めた利用満足度アンケートで、当センターの利用満足度を問うたところ、普通以上「とても満足」・「満足」・「普通」が99.3%となり、目標を上回ることができた。

（3）各事業講座等の参加者満足度 普通以上「とても満足」・「満足」・「普通」が80%越え

国際交流センター主催事業の研修会、講座、イベント等にて参加者の協力により集めた参加者アンケートにて、満足度を問うたところ、普通以上「とても満足」・「満足」・「普通」が99.6%となり、目標を上回ることができた。

カ サービス向上や管理運営経費削減の取組状況

○経費の縮減

令和6年度も事業費の削減に努めた。また、仕事の効率化と職員の健康管理の面からも、職員1人ひとりの時間単位の生産性の向上を図った。電気代の高騰により一部では費用が増加したが、通信運搬費、消耗品費などの削減可能な事務経費は、日々の管理により変化に気づき、職員への情報周知や経費の可視化等の工夫を行い、職員が一丸となり経費の縮減に取り組んだ。

○外部資金の活用

自治体国際化協会（CLAIR）等からの助成金を活用し、外部からの資金調達に努めた。

キ 各種研修の実施状況

再掲（令和6年度和歌山県国際交流協会事業報告書 P.4）

○公益法人の皆様が知るべき資産運用（特に債券運用）の基本 全3回（オンラインセミナー）

- (1) 日 時 第1回 令和6年5月21日（火）
第2回 令和6年6月4日（火）
第3回 令和6年6月18日（火）
- (2) 講師 インディペンデント・フィデューシャリー株式会社
マネージング ディレクター 栗津 久乃
- (3) 内容 第1回「現状の公益法人の資産運用における課題、債券の種類と見方」
第2回「債権の仕組み、リスク管理、ポートフォリオ運用」
第3回「債権以外の知るべき知識」
- (4) 参加対象者 当協会職員（2名）

○ カスタマーハラスメント研修

- (1) 日 時 令和6年11月21日（木） 13:00～16:00
- (2) 講師 (株)アクトプランニング Seek 依藤 由香
(日本電信電話ユーザ協会契約ビジネスマナー主任講師他)
- (3) 内容 カスタマーハラスメント～クレームを信頼に変える～
- (4) 参加対象者 当協会職員（10名）、NPOサポートセンター職員及びビッグ愛館内職員 総数30名

○ ハラスメント研修

- (1) 日 時 令和6年12月5日（木） 10:00～12:00
- (2) 講師 特定社会保険労務士 吉岡 恭子（吉岡社会保険労務士事務所）
- (3) 内容 アサーティブコミュニケーションについて（ワーク含む）
- (4) 参加対象者 当協会職員及び JICA 和歌山デスク職員（11名）

○ 人権研修

- (1) 日 時 令和7年2月13日（木）10:00～12:00
- (2) 講 師 和歌山県 企画部企画政策局国際課 副課長 山田 香世
- (3) 内 容 ①同和問題 ②障害のある人の人権
- (4) 参加対象者 当協会職員及びJICA 和歌山デスク職員（10名）

○ 管理者のための立入検査のポイントと対策研修

- (1) 日 時 令和6年9月27日（金）13:30～14:20
- (2) 講 師 公益財団法人公益法人協会相談員・公認会計士 齋藤 健
- (3) 内 容 ①立入検査の概要 ②最近の立入検査等の実施状況事例紹介
③立入検査実務内容 ④指摘事項事例紹介 ⑤制度改正後の検査について
- (4) 参加対象者 当協会職員（2名）